



2019年11月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年4月3日

上場会社名 株式会社バイク王&カンパニー 上場取引所 東
 コード番号 3377 URL <https://www.8190.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 石川秋彦
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 管理部門担当 (氏名) 竹内和也 (TEL) 03-6803-8855
 四半期報告書提出予定日 2019年4月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年11月期第1四半期の業績(2018年12月1日~2019年2月28日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年11月期第1四半期	4,063	3.9	△299	-	△278	-	△299	-
2018年11月期第1四半期	3,911	2.9	△347	-	△326	-	△340	-
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2019年11月期第1四半期	△21.47		-					
2018年11月期第1四半期	△24.39		-					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年11月期第1四半期	5,399	3,571	66.1
2018年11月期	5,544	3,899	70.3

(参考) 自己資本 2019年11月期第1四半期 3,571百万円 2018年11月期 3,899百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年11月期	-	2.00	-	2.00	4.00
2019年11月期	-				
2019年11月期(予想)		2.00	-	2.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年11月期の業績予想(2018年12月1日~2019年11月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	10,000	3.1	40	-	100	165.6	55	418.0	3.94
通期	20,000	0.4	70	6.2	190	1.5	90	3.1	6.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2019年11月期 1 Q	15,315,600株	2018年11月期	15,315,600株
② 期末自己株式数	2019年11月期 1 Q	1,350,000株	2018年11月期	1,350,000株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2019年11月期 1 Q	13,965,600株	2018年11月期 1 Q	13,965,600株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国経済は、個人消費の持ち直しに加え、企業収益は足踏みがみられるものの高い水準を維持するとともに雇用・所得環境の改善が続く等、緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、米中貿易摩擦による海外経済の不確実性、今後予定されている消費税率引上げ等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属するバイク業界におきましては、国内におけるバイクの新車販売台数は約35万台（2017年実績、出所：一般社団法人日本自動車工業会）と前年を上回って推移いたしました。また、バイク保有台数は1,095万台（2017年3月末現在、出所：一般社団法人日本自動車工業会）となり、比較的価値の高い原付二種以上は微増、全体は微減する傾向となりました。

このような市場環境のもとで、当社は、ビジョンとして掲げる「バイクライフの生涯パートナー」の実現に向けて、従来のバイク買取専門店としての「バイク王」から、バイクに係る全てのサービスを総合的に提供する「バイクのことならバイク王」と言われるブランドへの進化を掲げております。これを実現するため当社は、前事業年度までに複合店（従来の買取に加え新たにリテール販売を開始した店舗）を拡大し、お客様とのタッチポイントを増加させるとともに次の成長に向けた経営基盤の構築に取り組んでまいりました。

当事業年度においては、「仕入車輛の量と質の確保」、「仕入価格の適正化」および「リテール販売台数の増加」を基本戦略とし、さらに「複合店に適したMD（マーチャンダイジング）サイクルの確立」、「店舗運営の生産性向上」、「人材育成の強化」、「人事制度の拡充」に取り組むことにより、ビジョンの実現、持続的な成長と安定した収益構造の構築を目指しております。また、第1四半期は、冬場となることからバイクのオフシーズンとなり需要が低下するため、例年赤字を計上しており、これを解消することは大きな課題と捉えて改善に努めております。

上記を踏まえ、当第1四半期累計期間においては、高収益車輛への対応時間を確保するための仕入業務オペレーションの継続的な強化、繁忙期に向けた人員体制の見直しに加え、広告宣伝におけるマスメディア・WEBの媒体構成の最適化を図りながらバイク王を想起させる広告宣伝活動を推進いたしました。これにより、高収益車輛の量は維持され車輛の質が向上いたしました。

また、継続的な仕入プロセスの見直しによって仕入価格の適正化を図ったほか、主として前事業年度に複合店化した店舗の貢献によりリテール販売台数は増加し、収益の改善が図られました。出店については、複合店を新たに1店舗出店した結果、全59店舗のうち52店舗が複合店となりました。

このように、車輛における質の向上およびリテール販売台数の増加により平均売上単価（一台当たりの売上高）が前年同期を上回り売上高は前年同期をやや上回りました。加えて、平均粗利額（一台当たりの粗利額）が前年同期を上回ったことにより売上総利益も前年同期を上回りました。

営業利益以降の各段階利益につきましては、販売費及び一般管理費はやや増加いたしました。売上高および売上総利益の増加にともない前年同期よりも改善し、課題であった第1四半期の損失を縮小できました。

以上の結果、売上高4,063,349千円（前年同期比3.9%増）、営業損失299,855千円（前年同期は347,048千円の営業損失）、経常損失278,600千円（前年同期は326,822千円の経常損失）、四半期純損失299,856千円（前年同期は340,625千円の四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べて262,945千円減少し、3,602,882千円となりました。これは主に、現金及び預金が183,836千円、売掛金が144,087千円減少し、商品が70,811千円増加したためであります。

(固定資産)

固定資産は、前事業年度末に比べて117,521千円増加し、1,796,620千円となりました。これは主に、リース資産の増加等により「有形固定資産」が57,288千円、ソフトウェアの増加等により「無形固定資産」が53,251千円増加したためであります。

(流動負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて144,056千円増加し、1,413,889千円となりました。これは主に、未払金が160,469千円、前受金の増加等により「その他」が55,079千円、買掛金が35,939千円増加し、賞与引当金が62,742千円、未払法人税等が52,300千円減少したためであります。

(固定負債)

固定負債は、前事業年度末に比べて38,342千円増加し、414,163千円となりました。これは、長期リース債務の増加等により「その他」が32,158千円、資産除去債務が6,183千円増加したためであります。

(純資産)

純資産は、前事業年度末に比べて327,823千円減少し、3,571,450千円となりました。これは、主に利益剰余金が327,787千円減少(株主配当27,931千円、四半期純損失299,856千円)したためであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期累計期間および通期の業績予想につきましては、2019年1月11日に公表いたしました決算短信に記載の業績予想から変更ありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年11月30日)	当第1四半期会計期間 (2019年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,655,147	1,471,310
売掛金	234,530	90,443
商品	1,804,596	1,875,407
貯蔵品	8,874	8,399
その他	162,721	157,364
貸倒引当金	△42	△42
流動資産合計	3,865,827	3,602,882
固定資産		
有形固定資産	675,545	732,834
無形固定資産	350,215	403,466
投資その他の資産	653,337	660,319
固定資産合計	1,679,099	1,796,620
資産合計	5,544,927	5,399,503
負債の部		
流動負債		
買掛金	121,109	157,049
短期借入金	100,000	100,000
未払金	366,931	527,400
未払法人税等	73,100	20,800
賞与引当金	86,811	24,068
その他の引当金	2,199	8,392
資産除去債務	-	1,417
その他	519,680	574,759
流動負債合計	1,269,832	1,413,889
固定負債		
資産除去債務	171,443	177,626
その他	204,377	236,536
固定負債合計	375,821	414,163
負債合計	1,645,653	1,828,052
純資産の部		
株主資本		
資本金	590,254	590,254
資本剰余金	609,877	609,877
利益剰余金	3,055,386	2,727,598
自己株式	△356,229	△356,229
株主資本合計	3,899,288	3,571,501
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△15	△50
評価・換算差額等合計	△15	△50
純資産合計	3,899,273	3,571,450
負債純資産合計	5,544,927	5,399,503

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自2017年12月1日 至2018年2月28日)	当第1四半期累計期間 (自2018年12月1日 至2019年2月28日)
売上高	3,911,342	4,063,349
売上原価	2,302,496	2,331,954
売上総利益	1,608,846	1,731,395
販売費及び一般管理費	1,955,894	2,031,250
営業損失(△)	△347,048	△299,855
営業外収益		
受取利息及び配当金	209	242
クレジット手数料収入	16,378	16,359
その他	4,427	5,453
営業外収益合計	21,015	22,055
営業外費用		
支払利息	491	800
その他	298	0
営業外費用合計	789	800
経常損失(△)	△326,822	△278,600
特別利益		
固定資産売却益	-	69
特別利益合計	-	69
特別損失		
固定資産除却損	8	0
減損損失	-	5,839
特別損失合計	8	5,839
税引前四半期純損失(△)	△326,831	△284,370
法人税、住民税及び事業税	13,679	13,653
法人税等調整額	115	1,832
法人税等合計	13,794	15,485
四半期純損失(△)	△340,625	△299,856

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。